

# あだたら

発行所 本松市木ノ根 坂の会  
あだたら山部  
編集 部

一月二十日 (日)

一月山行  
福島市・信夫山 (三七五ノ山)

報告 編集部



鳥ヶ崎に居合わせた人に撮って貰った、10時15分

二本松駅で小野寺さんと合流、八時の下り東北本線

で出発、センター試験の日目、車内には参考書開いて

●編集部連絡先  
二本松市本内1-515  
0243(22) 4245  
渡辺 正

ている受験生が目立つ。松川でタカ子さんを発見、同じ車両に乗り込んだ様子、違う出入り口なので顔合わせられなかった。金谷川駅で下車する人多数、タカ子さんと合流した。福島駅は、西口から出た。飯坂街道歩いて、フォーラムの先の交差点から右折して図書館へ、途中で犬の散歩していた。婦人からタカ子さんに声掛け、なんと今日参加するはずだった松崎さんのお友達、以前の山行で一緒だったタカ子さんの顔覚えていて声掛けてくれたのだ。図書館の駐車場で青木会長と長澤さん、長澤さんお友達渡辺さんと合流、美術館の駐車場は施設されていたという。参加者全員揃ったので、歩いて、森合配水池下へ向かう。直ぐ脇の踏切を飯坂電車の新型車両「いい電」が通った。配水池への石段登ろうとしたら、長澤さん渡辺さんは更に北へ行こうとする。今日はこの石段、下から登りたいという無理に配水池の石段登って貰った。何しろ「県工・福女」山岳部のトレーニングの場所だというのだ。今回は配水池まで登らず、更に西へ進んだ。

途中に、コンクリートで閉ざされた、戦争中の地下工場入口を見る事が出来る。更に進むと、巨大な「湯殿山」石塔が立っている。この一寸下に、レールで作られた手摺りのある立派な石段がある。下り東北本線、飯坂線の「曲松踏切」だと言う。帰宅して地図確認したら、其の石段こそが信夫山の「最西端」の登山口であった。次はここから登りましょう。ここから一登りで日向山稜線、やがて森合配水池からの道「森合道端3号踏切」登山口との合流点だ。やがて南側へ下る極楽寺への分岐を過ぎると、「鳥ヶ崎」への急登が始まる。頂上直下は両手両足を使わないと登れない程きつい。鳥ヶ崎では居合わせた人、二本松出身の方だった。にシャッター押して頂いて記念撮影、湯殿山・月山へ向かう。途中で「瑪瑙」見つけたけど場所は内緒。正午には羽黒山山頂、本殿に持参した大七のワンカップお供えして、みんなで少しずつ飲んだ。奥には奥の松のワンカップもあった。地元福島の酒でない二本松の酒が何で、と思っただけ。新しくできた「信夫山ガイドセンター」で昼食にしようとしてみたが、食事は駄目らしい。少し戻って第二展望台で昼食。一月二十日、大寒の当日のはずが暖かい。当日午後の福島の気



昼食時、分けて頂いた、おみくじ付お汁粉とパン、ありがとうございます。

温は十度越え、とにかく暖かい、衣服ちよっと開けないと汗かいてしまう状態。食事の後は、岩谷観音に下った、石仏大好きな私は一人でじっくり見て回った。すると「奥州安達口二本松八口村住」という刻字見つけた。一人で喜んでいたら、置いて行かれてしまった。一度祓川まで下がったが、長澤さんに電話して居場所聞いて登り返して、タンタラ清水で追いついた。そこからは、更に西へ回って、新幹線トンネルの真上、慰霊碑まで行って下って、図書館に車置いた人と別れた。今回の山行も無事に終わった。福島駅からは始発だったので座れた。二本松駅まで戻った。二万五千歩ほど歩いた。昨年の十月二十一日の湯川溪谷刈払い作業とほぼ同じ歩数だ。(前回の信夫山は二〇一五年二月二十二日、会報三一八号)



「二本松」銘の石仏、N〇41



昼食後、岩谷観音目指して出発前、13時19分

一月一日、五日

### 正月山行、安達太良山、「八の字の頭」まで 五日、浜通り、塩手山・鹿狼山

報告 菅野



「八の字の頭」道標

昨年十一月、十二月は病院通い、年末になり回復し、今年も毎年続けている元日の行事(私だけの)を行うことが出来た。お城山での初日の出から始まり、内神様参り、その後安達太良山へ行く事である。平成最後の年もやれたので、幸せを感じている。今年はお出が遅く奥岳十一時、準備をし出発すると大きな声で女性が「あ、あだたらのお父さんだ」と私のところに来る。

昨年の元日にも奥岳で遭った、いわきの人、一年ぶりでの再会である。今回も又写真を撮り、又元気で逢える事を約束し出発。鳥川橋で十二時、昨年とは違い雪が多く、五十坪位有り、夏山の段差のある登山道も平で歩きやすい。安全のため

アイゼンを着けて登る。安達太良で元日迎えた人達が下山して来る。又今日小屋泊まりの人が登ってくる。みんな笑顔で新年の挨拶。途中から風も収まり雪が降り始める。八の字の頭、一時十五分。小屋泊まりのパールティ五人と山談義。ここから帰るなんて勿体ない、小屋迄行こうと誘われたが、立食いの昼食を済ませ、馬車道を下山、奥岳三時、無事下山する事が出来た。

◆ ◆ ◆  
一月五日、年末の新聞で一番遅い山開き、来年十二月第一日曜日行おうとの記事



塩手山山頂 (282.1m)

を見、地図で調べ資料も無く出発。頼りは地元の人、塩手山の登山口の大きな四季咲桜の近く、車を止めて登る(許可は貰った)。十五分程登ると分岐点の石柱、右手長社道、左・カタクリコースとあり、どちらも山頂へ行けると思い、カタクリコースを登る。歩きやすい道、途中から登山道となり、間もなく稜線に出る、間もなく塩手山山頂(二八二・一)に。男性一人眺望楽しんでた。相馬市内から長い沿岸を楽しみ、小休憩後下山。少し下り登り返した山頂に小さな木製の祠、これが手長神社かな? 手を合わせ下山。ジクザグに作られた急な登山道、滑る所もあり、慎重に下る。緊張から解放された所が分岐点であった。登り約一時間、



鹿狼山山頂 (429.3m)

下り約四十分の里山であった。下山後、鹿狼山駐車場で。駐車場でおそい昼食。二時に鹿狼山頂へ出発。午後でもあり、登山者もまばら。山頂から晴れ渡った空の下、眺望を楽しみ、四時駐車場へ下山。丸森町・三九国道・福島と周り、六時無事帰宅する事が出来た。今年も無理せず、体力に合った山行を楽しみたいと思っています。気力第一。

◆ ◆ ◆  
安達太良山にも欲しい、緊急通報ポイント



一月三十日(水)  
菊の里、そりすべりボランティヤ

報告 編集部

二本松市の社会福祉法人「あおぞら福祉会菊の里」は、三十日(水)、二本松市塩沢スキー場で「あおぞら教室・そり滑り」を実施した。当日は朝から快晴、日射しも暖かい。参加者は記念写真撮影と準備体操をして、早速そりすべりを開始した。場所はゲレンデ内を任切ったそりすべり場。利用者そりすべりにも大分慣れてきて、殆どの人が一人で滑られるようになった。二人で乗ったり、つないで



そりすべり参加者

グループで乗ったり、大いに楽しんでいました。昼食は特製のランチ、午後一時間も後、レストハウス内で「終りの会」。利用者代表からボランティアに御礼の品物を手渡し



当会からのボランティア



て、今回のそりすべりを終えた。利用者・ボランティアなど六十名ほどが参加した。当会からは四名が参加した。